

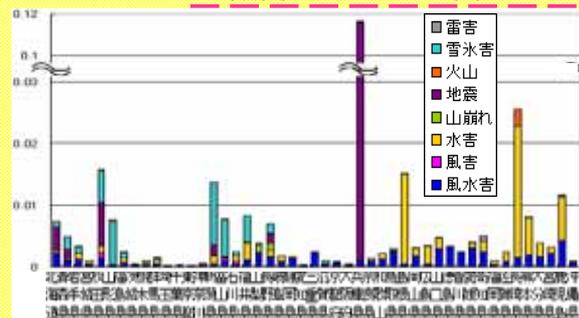
マルチハザードリスクから見た 地域別潜在的災害リスク特性の評価

Evaluation of Regional Characteristics on Potential Disaster Risk Considering Multi Hazards

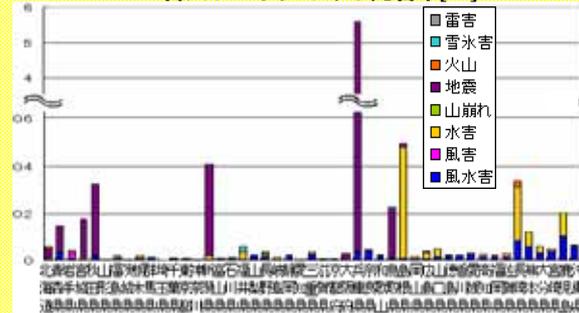
日本は位置、地形、地質、気象といった自然的条件から、様々な自然災害が発生しやすい環境にあり、古来より災害による人的被害、物的被害は毎年のように発生してきた。近年でも台風襲来に伴う新潟、福井での豪雨災害、浅間山噴火、内陸の活断層型地震である新潟県中越地震の発生等と多種多様な自然災害の発生によって市民生活が多大な影響を受けたことは記憶に新しい。そこで本研究では、各種の災害リスクを総合して「マルチハザードリスク」として捉え、地域が潜在的に有するマルチハザードリスクの特性を理解することを試みる。通常防災対策は都道府県を主体として行われるが、近隣自治体のリスクに対する理解を深めることによりさらに実践的な広域防災連携体制を講じることも可能となると考えられる。

過去の被害

近接する都道府県間で共通する傾向は必ずしも強くない



各ハザードにおける死者率[%]



各ハザードにおける住家全壊率[%]

過去のハザード

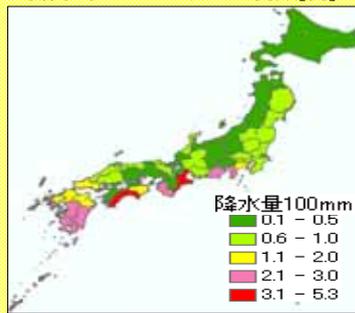
近接する都道府県間で共通する傾向が強く見られる



日降雪量100cm以上の日数[日]



降雪日数の平年値[日]

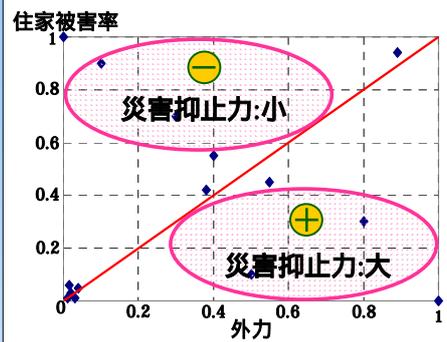
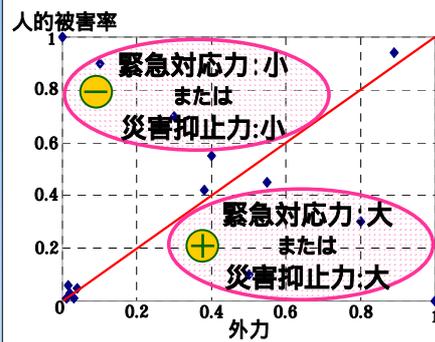


日降水量100mm以上の日数[日]

同規模のハザードでも
都道府県によって
被害発生状況に差異がある

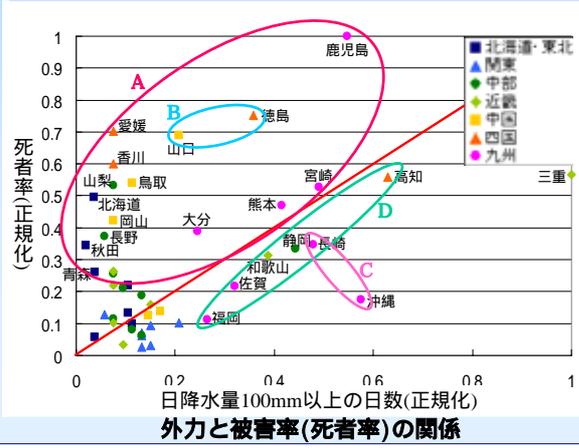
都道府県に固有の
災害に対する脆弱性が
存在するのでは?

過去の風水害被害とハザードの関係

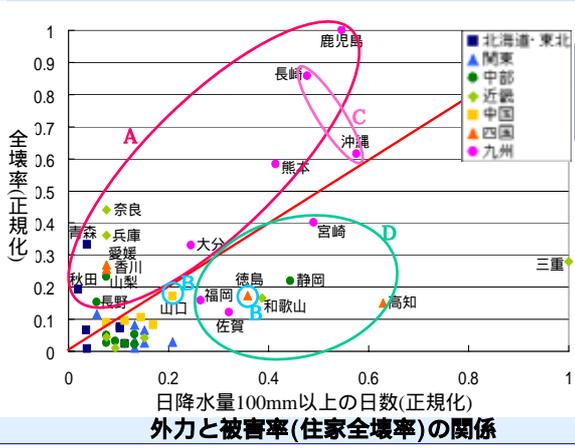


	緊急対応力または災害抑止力	災害抑止力
A	小(-)	小(-)
B	小(-)	大(+)
C	大(+)	小(-)
D	大(+)	大(+)
E	被害、外力ともに微少で判別不可能	

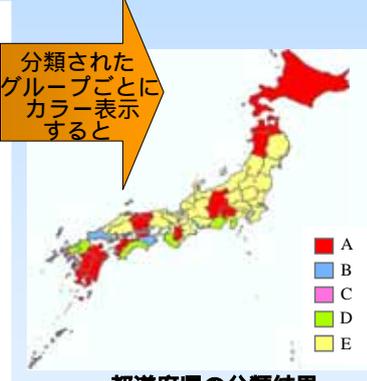
Cの災害抑止力が小さく住家被害が多く発生しているエリアは、住家の強度が弱いことや立地場所が悪いことが理由として考えられる。Bの緊急対応力または災害抑止力が小さいエリアは、住家の強度の問題よりも災害発生時の避難行動の遅れなど、人間の即時対応行動に問題があると推測される。緊急対応力・災害抑止力ともに小さいAは、これら両者の対策が乏しいと推測される。



外力と被害率(死者率)の関係



外力と被害率(住家全壊率)の関係



分類された
グループごとに
カラー表示
すると

都道府県の分類結果